

第 4 回統計改革推進会議・提出意見

大阪学院大学教授 三輪 芳朗

永年の課題であった統計改革が統計改革推進会議の設置とともに本格的にスタートした。数か月間で報告書が取りまとめられ、その実施状況の監視・点検・フォローアップに向けた会合が本日開かれる。報告書の内容に沿って、概ね予定通りに順調に実施されているとのこと、喜ばしい限りです。

ご出席の皆さまはすで十分にご理解のことと思いますが、敢えて、以下の点を強調したい。半世紀以上にわたって、本格的に顧みられることなく放置されてきた重大かつ深刻な課題群への対応をスタートさせて展開し、その解決にめどをつけることが今回の統計改革の歴史的役割であり、統計改革推進会議の使命だと私は考えております。このこととの関連でいえば、昨年5月の報告書は、スタート段階で最初につけるべき諸課題を明示し、その解決に最低限必要な対応策の採用を決定したもの、改革の第一歩と位置づけるべきです。今日に至るその後の時期は、重大な課題と必要な対応策の具体的な内容の実質にまで立ち入った検討に必要な情報の収集まで含めた準備と熟成の期間でもあると考えるべきです。報告書の内容が順調に実施され続ければ10年後には永年の課題・懸案が解決され、状況が大きく改善される・などということはないでしょう。

新たな課題群への対応を目指す統計改革の次の **steps** が必ず必要となります。しかも、何度も……。報告書を作成して、内容を実施に移し、関連法を含む関連制度の必要な改正を実現すれば一段落……。という感覚が広がるおそれが強いそうです。信頼できる統計の整備・活用は重要な社会インフラです。これと、その積極活用を前提とする **EBPM** の推進は今日および今後の日本の社会と経済政策の運営基盤としてともに決定的に重要です。これらの推進はともに最優先の政策課題だと思います。

今後、新たな課題等への対応がおそらく1年以内に次々と提起されるはずです。そのような際にも、「あれで終わったんじゃないのか……」などとせず、「ようやく出てきたか……。こんなに待たされるとは思わなかった」と前向きに対応していただきたいと思います。途上で、「まだか……」という声が出るようになれば、さらに望ましいと思います。日本の統計の内容と利活用の現状が抱える課題群の重大さ深刻さに対するみなさまの関心と理解が統計改革の実質的進展には不可欠です。